



2006年2月 第2号

# 地域づくりの知的拠点に期待する

豊橋市長 早川 勝



三遠南信という言葉が定着し、東三河においても浜松地域や飯田方面の県境を越えた情報が入りやすくなっています。平成5年以来、三遠南信の市町村長や経済界の商工会議所・商工会の会頭・会長がサミットを開催し、三遠南信のつながりが必要であると主張して既に12年が経過しています。その間、多様な交流が次第に大きくなり、三遠南信自動車道の一部共用開始など、県境を越える連携として国内の地域をリードしてきたことは広く知られています。

こうしたなか、愛知大学に三遠南信地域連携センターが設立されたことは、愛知大学が地域社会との連携・協働を重視する一つの方向性を示すもので、これまで培った大学の知的財産が、地域社会に活かされていくということでもあり、大変期待しています。地域に開かれ、地域に密着し、地域から信頼される知的機関が21世紀の大学の一つの使命です。

今、地方分権の推進と市町村合併が進められています。また、情報化や外国籍市民の増加がみられ、地域レベルや産業分野での一層の国際化が求められるなど、三遠南信地域を取り巻く環境も大きく変化しています。このような激しい時代の動きを背景に、それぞれの市町村や地域が自立し、古い交流の歴史に立った多様性とバランスのある地域の発展のためには、これまでにもまして広域的な連携が必要となっています。

三遠南信地域連携センターは地域研究・地域貢献・地域連携の拠点として、本市をはじめこの地域のデータの集積と解析など、地域力を高め、学生・地域住民に向けた人材育成事業などの事業が既に進められています。これらの事業は、今後の変化の激しい時代の中で、大学と行政、大学とコミュニティ・市民、そして産官連携の継続的推進に寄与し、それぞれの自立と発展につながるものと考えています。

三遠南信地域連携センターを軸に、愛知大学と行政との連携を緊密にし、積極的に協働していくため、大学の有する人材、情報、資料などの大変重要な知的財産を活用させていただき、自立したコミュニティ、豊橋市、そして活力ある東三河、三遠南信をつくり、「連携・協創のモデル」として国内外に発信する夢を抱いています。三遠南信地域連携センターのますますのご発展を心より期待いたします。

## CONTENTS

1	地域づくりの知的拠点に期待する
2	センター事業の取り組み状況
3	・教育・人材育成事業
4	・官学連携事業
5	・地域づくりサポーター活動報告
6	・韓国地域革新会議・博覧会に出席して「一村一品」国際セミナー in 西安に参加して「一村一品」国際セミナー in 西安に関する中国国内の報道について
7	センター・トピックス
8	・連携まちづくりワークショップ開催される
9	・中国貴州大学経済学院と学術交流協定を締結
10	・国土交通省受託事業決まる
11	・豊橋技科大との連携融合事業が文科省に採択される
12	・ESRI 社のGIS教育支援プログラム採択される
13	活動記録
14	地域づくりサポーター活動状況
15	三遠南信地域連携センターの概要

## センター事業の取り組み状況

### 教育・人材育成事業

事業責任者 胡麻本 篤

#### 『とよがわ流域大学』全講座終了 2月18日公開シンポジウムで成果発表

センターでは、愛知県との初の連携事業として今年度「とよがわ流域大学」を開校し、去る12月10日、全10回の講座を終了した。受講者51名の年齢層は10代から60代後半までと幅広く、多彩な顔触れが集まつた（応募者は約70名）。

この大学は、豊川の水を通して共存共栄している上下流の広域圏づくりに中心的な役割を果たす人材を育成する事が目的。そのため講座も一方通行的な座学ではなく、受講生にも豊川流域を活かすアイデアを考えてもらうなど参加型のワークショップを積極的に取り入れた。

さらに10講座のうち2講座はフィールドワークとして、1回目は地元蒲郡市や静岡県藤枝市のNPOを訪ね、「地域通貨」に関する現地視察を行った。2回目の11月26日には、新城市観光協会を訪ね、同会の「広域観光戦略」の展開について同事務局長から直接話を伺い、活発な討議を展開した。

講師スタッフは、本学の教授6名を中心に地元の豊橋技術科学大学、豊橋創造大学や民間研究機関、NPO組織、愛知県、新城市等からも協力を得、いずれも各分野の第一線で活躍する多彩な顔触れがそろつた。

講座は10月1日からスタートし、ほぼ毎週1回（土曜日午後）開催。主として次のようなテーマで講義が行われ、講師からの問題提起を受け、6班に分かれた受講者グループで活発に討議。最後にグループ単位で発表し、講師がコメントするという形の双方向授業が行われた。

#### 〔主なテーマ〕

1. 豊川流域圏の課題（地域政策・経済）
2. 地域通貨の実態（蒲郡・藤枝市）
3. 豊川流域圏の民俗、文化
4. 広域的観光資源の発掘
5. 豊川流域圏一体化への取り組み

参加した受講生からは、「素晴らしい講師陣により「豊川流域に関する多くの知識を得る事が出来たので満足している」と多くの感想が寄せられた。

ただ、講座の運営上の問題として「講義を聞き、さらにワークショップも行うには、通常講義時間（90分）では、時間不足であ

り、もっと時間をとって欲しかった」という、前向きで意欲的な感想も少なからずあった。事実、授業は毎回延長され盛況であった。

2006年2月18日（土）には公開シンポジウムの開催が予定されている。受講生は講座終了後もグループ毎に数回のミーティングや相互のメール交信を重ね、各自独自のテーマを設定し、レポートを作成していただいている。シンポジウムでは、今回の講座の成果として様々な問題提起や提言が発表され、それをめぐつての活発な討議が展開されるものと思われる。

最終講座の前日の12月9日には、本学の武田学長が神田愛知県知事を訪ね、今回の講座の報告を行った。同知事からは「県としても大学との初めての連携事業であり、成果を大いに注目している。豊川流域の振興を担う新たな人材が出て欲しい」との期待が述べられた。2月18日シンポジウムの開催当日、修了式も行われる。本事業全般にわたる成果は、改めて「報告集」として本年3月末には刊行を予定している。しかし、本事業はこれで全て終了するわけではなく、むしろ今後、今回の受講生の皆さんのが受講生間や講師陣との絆を深め各々の地域で成果を活かし、各受講生が豊川流域圏づくりに向け、実践的で多彩な取り組みの発信源となっていたらしくことが重要である。皆さんの今後の活躍が期待され、センターとしても、そのための支援活動を積極的に行いたい。



### 官学連携事業

事業責任者 稲嶋 久好

#### 新たな展開をみせた三遠南信サミット2005 in 遠州



昨年11月4日に浜松市において開催されたサミットは13回目を迎え、「三遠南信新たな時代の幕開け～夢街道いよいよ実現」をテーマに行政、経済界及び地域住民500名が参集した。今回のサミット

は、圏域内の市町村合併による行政組織の再編後の新たな広域連携、待望されている三遠南信自動車道建設工事の加速に向けて、県境をまたぐ3地域の交流・連携のあり方と具体的行動がテーマとなつた。

今回のサミットで特筆すべきは、初めて「市民団体、地域住民のセッション」が設けられ、地域づくりの多様な主体である地域住民、NPOが登場したことである。市町村合併後の行政、経済、市民・NPOによる協働の地域づくりへの行動指針が熱く議論された。センター会議のメンバーでもあるNPO法人アミの照井氏もセッションに参加されていた。「テーマ観光などの新しい産業おこ

し」、「多面的機能をもったみちづかい」等意見が交換され、サミット終了後も市民レベルでの交流セッションの開催を申し合わせていた。

行政サミットでは、災害に強い地域づくりと連携協力をより進めるために「三遠南信災害時相互応援協定」が合併後の市町村連携として調印がされた。経済サミットでは、新しい道の早期開通を加速させることを目的として「三遠南信道路早期開通期成同盟会」が設立された。

同時に経済界から「三遠南信連携ビジョンの策定」が提案され、第13回行政、経済サミットの合意として、平成18~19年度での事業化が決定された。

愛知大学からは、三遠南信地域連携センターの事業報告の機会を得た。私より、三遠南信地域のデータベース構築事業、学術的共同研究事業、官学連携事業、地域づくりサポート制度の紹介を行った。また、交流会・報告会において、武田学長より、関連した補足の説明と各界への協力要請がなされた。

## 地域づくりセンター活動報告—『売木村・新米祭りに参加して』

### ●地域づくりセンター 文学部2年 加藤 沙織



新米祭りに参加して、最初に思ったことは、予想より人がたくさん来ているということでした。会場は、少しきイメージと違ってこじんまりとしている印象をうけたのですが、手作り感がでていて良い雰囲気だなと思いました。ただ、新米祭りが行われていると知らずに来たお客様は、「何をやっているのか分からぬ」という声も聞かれました。もう少し大きめに「新米祭り会場」という看板（商店街などにあるアーチ状のものなど）を置いて、お祭りムードを出したほうが良いのではないかと思いました。

お祭りの内容としては、地元の人人が中心となって楽しそうに五平餅を販売したり、お客様と触れ合う姿が活気にあふれています。私自身もジャンボ五平餅づくりなどに参加させてもらい、とても楽しかったです。



アンケートは、目標通り100部以上集まって、今後売木村でイベントをするときに役立つ資料になるのではないかでしょう。粗品は協力の方に喜んでもらえただけでなく、持っている人は協力して

くれたことが分かって、重複して聞くことを避ける目印になりました。

上に書いたように、新米祭りと知らずに来たお客様の話を聞いていくと、「売木の温泉が大好きでよく来る」という方が多数いらっしゃいました。なので、売木米だけを押し出していくのではなく、温泉も売木の名物として一緒に売り出していくと集客にもつながって村が活性化すると思います（「温泉祭り」と題して、売木村にある温泉を開放し、一定の期間入浴し放題にするなど）。また、何時からどんなイベントがどこで行われるかということを大きな紙に書いて貼っておくと、行きたかったのに逃してしまうということがなくなってくれるのではないかと思います。同じように、案内所のようなブースを作り、分からない人に説明する場を設けるとより良いのではないかでしょうか。

最後に新米祭りでは、餅つきやジャンボ五平餅、試食販売と地元で作り上げたものを使って、地元の人があ客さんをもてなすといった感じで温かみのあるお祭りになったと思います。今後もこういったイベントを通して、売木村の良さを知ってもらい、また売木村に来てもらえるような持続性のある地域づくりのお手伝いがしていけたらと感じました。



### ●地域づくりセンター 文学部3年 大松 優子



11月3日(木)雨が降る中、長野県売木村で「新米祭り」が行われました。私は以前売木村で稻刈りの手伝いに参加したこともあり、また売木村の美味しさを実感していたので、今回の新米祭りでは、売木米のアピールに少しでも役に立てればと思い参加しました。「新米祭り」に関して私は当日に初めて参加していたので、今まで他の地域センターの取り組みを把握していない所もあり、とりあえず「売木村でのアンケート調査を行う」「五平餅作りや状況に応じて祭りを手伝う」という2つの仕事に関わりました。

新米祭りの会場はこまどりの湯で、その日は同時にふるさと館で秋色感謝祭が行われていました。私たちはこまどりの湯でアンケート調査を行いました。



アンケート調査に協力してくれた方にはお餅を配るというシステムで始まったおかけなのかアンケート調査は順調に枚数が増え、多くの人に書いてもらいました。

ただ、お餅の数が足り

なかつたり、アンケート用紙はもっと大量にあったみたいだったのでまだ違う方法でアンケートが取れる策もあったように思いました。巨大五平餅作りでは午前中にお米を練って木に餅をつける作業を行い、午前中から焼きました。私は午前中の五平餅作りに参加して熱々のお米を手で少し練ってからどうにか五平餅らしく下準備が出来たのでよかったです。売木村の方に教えてもらいながら作業はよく進み、とても楽しかったです。

午後に五平餅が出来あがり、配る仕事を私はしていましたが、早い者勝ちみたいな状況で、いろんな人がいっぺんにきて私の周りは少しあぶない感じになっていたので次回あるとすれば、配布券や列を作りながら配つたほうが、安全にお客さんが食べてもらえるのではないかと思いました。新米祭り全体としては、私たちのほかにも行事が行われてあり、アンケート調査をしていると行事や店に関して訊かれることが多かったので私自身前々から知っておくべきだったと反省の一つでもあります。

最後に売木村の新米祭りに参加して、自分が考えていたよりも人が多く、また売木米に興味を持って下さったり、知っている方



たちとお話しが出来、充実していました。新米祭り自体も天気は悪かったけど、賑わっていたのでよかったです。売木村の方々とはもっとお話を共同で何か出来たらと思いました。サポー

### ●地域づくりサポーター 経済学部3年 天野 洋介



#### 1. 来客について

当日、こまどりの湯会場では、駐車場が一時満車になるということもあり、会場にはたくさん人が来た。しかし、その人たちの目的は、新米祭りよりもこまどりの湯だという印象が強かった。そのため実際にアンケートに答えてもらったときに、当日の新米試食をしたかどうかの問い合わせについて、すぐそばで試食が行われているのに気づいていなく、試食していないと答えた人が、けっこういたようだった。

#### 2. アンケート活動について

当日、売木村の人たちにどのように動くのか指示が無いという話だったので、手伝いの状況によっては、アンケートはうまくいかないかもしれないと思った。

しかし来場者の人たちがアンケートに快く受けてくれたこともあり、目標を100に設定していたが、祭り時間内に到達することができた。

#### 3. 新米祭りについて

即売会にいた農家の人たちに売り上げを聞いたわけではないので、実際の感触はよくわからなかつたが、こちら側から見た点でいうと



タとして中途半端に参加してしまったような感じもありますが、売木村新米祭りに参加して気づいたことをこれから活動に皆で役立つように、取り組んでいければ良いなと思います。

- ・アンケートをした人の中に試食が行われているということを知らなかつた人がいた。
- ・ジャンボ五平餅を作るときに雨が降ってしまったことなど、天候が悪くなつた時の対応がうまくいったのか。
- ・こまどりの湯会場の駐車場に来る車の対応にとても苦労した。



#### 4. 参加した感想

今回の祭りの目的が「売木米をもっと多くの人に知つてもらう」ことだったので、試食が行われていることに気づいてもらえないことがあつたという点が特に残念だった。また来年祭りが開かれることがあるなら、この点を何とかしたほうがいいと思う。

### 韓国地域革新会議・博覧会に出席して

..... センター長 佐藤 元彦

昨年10月5日から7日にかけて韓国のテグにおいて、同国政府主催の第2回地域革新会議・博覧会(KRICX)が開催され、そのなかの専門家会議に招待されて参加する機会を得た。韓国では、ノ現政権の下で「国家均衡発展」、「地域革新」など、ソウル一極集中の発展を是正する取り組みが鋭意進められており、その一環として2004年から毎年1回KRICXが開催されている。専門家、行政などさまざまなレベルでの会議に加えて、各地域(道、市など)の地域革新、地域づくりに向けた取り組みの事例紹介ブースが多数設けられ、会場となつたテグEXCOは、韓国全土から訪れた参加者でごつた返していた。

さて、私が招待された専門家会議は3つのセッションからなっていた。第1セッションは「地域政策のガヴァナンス」がテーマであり、イギリス・ニューキャッスル大学のトマネイ教授(都市・地域発展論)による基調報告を中心とした議論が繰り広げられた。続く第2セッションでは「後発地域の発展政策」がテーマとして取り上げられ、私とドイツのショーン氏(ドイツ連邦政府職員)、そして韓国のイ氏(韓国人間居住研究所研究員)が講演を行い、3名の予定討論者からのコメントを得て、かなり突っ込んだやりとりが展開された。第3セッションのテーマは「革新的クラスター政策」であり、第2セッションと同様に3名の専門家(韓国産業研究院国家均衡発展研究センターのパク研究員、カナダ・サイモンフレーザー大学のホルブルック教授、そしてフランスDATARのポミエ女史)からの報告と3名の予定討論者によるコメントに基づいて議論が深められた。

私自身の講演は、日本における1960年代以降の全国総合開発計

画から最近の国土形成計画法への動きのなかで「地域」と「開発」の扱いがどのように変化をしてきたのか、また、この間の諸目標の達成状況が統計からみるとどのように評価できるのか、を主な内容とするもので、最後の部分では、グローバルな時代の地域政策の論点を提起した。紙幅の関係もあり、ここで他の講演の内容を網羅的に紹介することはさしつかえるが、三遠南信地域連携センターの当面の目標の一つに、東アジアでの地域づくりのための学術的交流ネットワークの形成があることから、韓国からの参加者、特に私と同じセッションで講演されたイ氏の講演内容について、以下に若干の紹介をさせていただきたい。

イ氏は、1980年代以降の韓国の地域政策をレビューした上で、今後の地域政策のポイントを整理し、これらを踏まえつつ、2004年に韓国政府が導入を決定した新・地域再生プログラムの概要とその改善点を示した。地域再生プログラムは、政府が指定した70地域(6市64郡の行政区画)が衰退の状況に応じて毎年200万ドルから300万ドルを受け取り、それぞれが立案した活性化事業を進めるというものであり、各年末時点での進捗状況の評価に基づいた加算が翌年の補助金額に反映されるという仕組みを取り入れられている。2005年から始まって2007年まで続けられ、最終時点で地域の指定が見直されることになっている。ちなみに、70地域は全体として国土面積の48.8%、対総人口比という点では7.4%を占めているという。また、活性化プランの内容としては農産物開発(35地域)、観光(12地域)、イメージ・マーケティング(7地域)、教育(5地域)、健康(6地域)、海洋・漁業関係(5地域)となっている。そして、こうしたプログラムの概要を踏まえた上で今後改善すべき

点があげられたが、第1に、地域自身が取り組むことになっているプログラムの策定について、現状では外部委託の傾向が強く、それからの脱却の必要性が強調された。第2点として、行政手続や慣行に縛られて創造的なアイデアが出にくい状況が指摘され、行政手続の簡素化、一層の規制緩和などが提起された。第3には、地域相互間の協力的重要性があげられ、行政区域を超えて共同によるR&D、

マーケティングを進めるべきとの意見が提起された。

韓国での「国家均衡発展」あるいは「地域革新」という取り組みは、日本にかなり遅れて始まっているものの、今回の各地域・事例の展示ブースや他の会議等をも見る限り、グローバルな時代の地域のあり方や地域づくりについて今後本格的な日韓学術交流を進める素地は既に出来上がっているとの感触を強めた。

## 「『一村一品』国際セミナー in 西安」に参加して



2005年11月5日から6日まで、佐藤元彦センター長とセンターRAの曉敏氏とともに、中国陝西省の楊凌で開かれた第2回「一村一品」国際セミナーに参加した。

一つの村で一つのブランドをつくるという「一村一品」

は、元大分県知事平松氏が1979年に提唱した農村振興ための活動で、大分県を中心に日本では成功を収めている。「地元立脚、国際視野、自立自主、銳意革新、人材養成、未来志向」の原則にのっとり、開発の遅れた農村でその土地の実情に合わせて特色ある地域経済を発展させ、豊かになるのを助けることをめざすものである。「一村一品」方式はすでに中国、タイ、韓国などの国・地域に広がり、経済的社会的によい効果をあげている。そのような背景のもとで、2004年9月に第1回「一村一品」国際セミナーがタイで開催され、大きな成功を収めた。

今回の第2回国際セミナーは、中国西安郊外にある楊凌で2005年11月5日9時に開幕した。開会式には、中国の曾慶紅国家副主席、許嘉璐全人代常務委副委員長、およびソムキット・タイ副首相、村

経済学部 教授 蒋 潢

山富市元日本首相ら内外の来賓が出席した。徐冠華科学技術相、李建国陝西省党委書記、孟建柱江西省党委書記らも出席した。これら以外には日本、オランダ、タイ、ベトナム、アメリカなど21カ国の代表が出席し、中国各地から1000以上の企業、団体と大学の代表も参加した。開会式の後、代表らは西北農林科技大学国際交流センターへ移動し、三つの分会場で「一村一品」国際セミナーが開かれた。各国の代表から自国の実情に適した「一村一品」の事例が数多く紹介され、脱貧困の経験、経済発展と地域間友好協力などをテーマにし、活発な交流活動が行われた。

11月6日の午前、セミナーの会場は楊凌郊外に移され、代表たちは楊凌の周辺地域で展開された「一村一品」の現場に赴いた。大学の主導で企画した「昆虫博物館」をはじめ、民間の製薬工場、村の家畜場と工場など、官民一体の地域経済発展への取り組みを視察した。お昼ごろ代表らは農家経営の民宿を訪ね、中国西北の家庭料理をご馳走になった。日本の大方で播かれた「一村一品」の種が、中国の西北大地に「脱貧困」の形で花を咲かせていることを実感した。

11月6日午後、「一村一品」運動の深化を目指し、「町づくり」「人材育成」と「流通・市場の開拓」などのキーワードが盛り込まれた「一村一品宣言」が満場一致で採択され、第2回「一村一品」国際セミナーは閉幕した。

## 「『一村一品』国際セミナー in 西安」に関する中国国内の報道について

センター RA 晓 敏

今回の国際セミナーは、中国国内の報道機関の注目を集め、CCTV(中国中央テレビ局)の「新聞聯播(重要ニュース番組)」、「人民日報(国内版)」、「人民日報(海外版)」および現地西安の新聞とテレビ報道等で大きく取り上げられた。報道内容の主旨は、今回の国際セミナーは、「交流・協力・発展」をテーマとし、「一村一品」の経験を取りまとめると共に「一村一品」理念の本土化・現地化と革新を促進し、様々な国や地域間の経済発展と協力をはかろうとするものである。また、今回の交流活動は「一村一品」の中国および世界での発展に積極的な影響を及ぼすものであるとも報道された。

「一村一品」国際交流推進協会理事長・前大分県知事の平松守彦氏が行った基調講演については、「一村一品」運動は、平松守彦氏が1979年に提唱した農村振興のための活動で、日本において成功し、発展の遅れた農村でその地域の現状に合わせ、特色ある地域経済発展および地域づくりをめざしてきたとして高く評価した。

また、曾慶紅中国国家副主席がソムキット・タイ副首相と会談した時に、中国政府は、「三農(「農業」の低生産性、「農村」の荒廃等、「農民」の貧困)」問題の解決を重視しており、今後、中国とタイの「一村一品」の経験の交流を強化し、両国の農村および農業発展を促進することを望んでいる、と述べたことも報道された。

## 曾庆红出席“一村一品”国际研讨会 开幕式前会见泰国副总理颂吉

本报西安11月5日电 记者王科报道：今天上午，由陕西省人民政府、农业部、国家外国专家局和日本大分“一村一品”国际交流推进协会共同主办的2005“一村一品”国际研讨会在陕西杨凌开幕。国家副主席曾庆红、全国人大常委会副委员长许嘉璐以及泰国副总理颂吉、日本大分“一村一品”国际交流推进协会理事长平松守彦先生，在1979年提出并倡

導的一项发展农村经济的活动。活动的主旨是发挥地方特色，开发特色产业，以促进地方经济的增长。

开幕式由农业部部长杜青林主持。陕西省省长陈德铭在致欢迎辞时说，这次研讨会以交流、合作、发展为主题，旨在总结“一村一品”经验，推动“一村一品”理念的本土化发展与创新，促进不同国家和地区之间的经济发展和友好合作。相信通过交流，将对“一村一品”在中国及世界范围内发展产生积极影响。

出席开幕式  
的还有科技部部长徐冠华、中共陕西省委书记李建国、江西省委书记孟建柱等。  
开幕式后，曾庆

红参观了“一村一品”成果展。

开幕式前，曾庆红会见了泰国副总理颂吉。双方积极评价了中泰关系的良好发展，对两国在各领域互利合作不断取得进展表示满意。曾庆红说，中国政府高度重视解决“三农”问题，希望中泰双方交流和借鉴“一村一品”方面的经验，推动两国农村及农业的发展。

颂吉表示泰国愿在农业领域加强同中国的合作。双方还表示将共同推进中国—东盟战略伙伴关系和自贸区建设。

## 中日举办“一村一品”国际研讨会 曾庆红会见泰国副总理

本报西安11月5日电 记者王科报道：今天上午，由陕西省人民政府、农业部、国家外国专家局和日本大分“一村一品”国际交流推进协会共同主办的2005“一村一品”国际研讨会在陕西杨凌开幕。国家副主席曾庆红出席开幕式并参观了“一村一品”成果展。

全国人大常委会副委员长许嘉璐以及泰国副总理颂吉、日本前首相村山富市等中外嘉宾出席了开幕式。

“一村一品”是日本大分县前知事、日本大分“一村一品”国际交流推进协会理事长平松守彦先生，在1979年提出并倡导的一项发展农村经济的活动。活动的主旨是发挥地方特色，开发特色产业，以促进地方经济的增长。

开幕式前，曾庆红会见了泰国副总理颂吉。

## センター・トピックス

### ●連携まちづくりワークショップ開催される

内閣官房都市再生本部（本部長：小泉首相）が選定した「大学と地域が連携したまちづくり」全国先例地域8箇所のひとつに、豊橋地域（豊橋技術科学大学、豊橋創造大学、愛知大学）が選ばれた。これは、地域再生推進においては大学が「地域の知の拠点」となることが重要であるとの観点から、地域づくりに取り組んでいる先進的事例を支援する目的で都市再生本部が全国から選定したものである。豊橋地域は、「大学と地域の包括的な連携による広域的な課題への取り組み」が評価され、今回の選定となった。

これを受け、都市再生本部や県・市関係者、3大学学長らが出席したワークショップが、昨年11月8日（火）、豊橋技術科学大学で開催された。冒頭、本学武田学長からは、本学が設立当初から地域主義と国際的視点という目標を掲げていたことなどに触れながら、本学と地域との関わりについて紹介があった。各大学の事例発表では、佐藤三遠南信地域連携センター長から、センター設立の趣旨や「とよがわ流域大学」、「地域づくりサポーター制度」などの取り組みについての概要が説明された。意見交換の中では、「学生の視点からの地域づくり」「在住外国人がまちづくりに果たす役割」などの問題提起がなされ、これに対し武田学長は、「ウリネ」（本学の韓国人留学生を中心とした韓国伝統音楽サークル）が各地で演奏活動を行い地域住民との交流を深めている事例などを紹介し、学生が関わる地域づくりを今後も伸ばしていきたい、などと述べられた。

このワークショップの模様は都市再生本部のHPに公開されるほか、都市再生本部長である小泉首相にも報告される。

### ●中国貴州大学経済学院と学術交流協定を締結

昨年12月、センターは中国貴州大学経済学院と学術交流協定を締結した。今後は、学術交流、研究事業等の具体的な交流活動を推進する予定である。



貴州大学にてセンター長と貴州大学外事处科長 張成霞氏

貴州大学は、中国貴州省の中で唯一「211工程（21世紀における一流大学事業）」に選定された重点大学である。貴州大学の前身は、1902年に建てられた貴州大学堂であり、省立貴州大学、国立貴州農工学院、国立貴州大学を経て、中華人民共和国成立後に貴州大学と改め現在に至った。1997年、貴州大学と貴州農学院、貴州芸術高等専門学校、貴州省農業管理幹部学院が合併した。そして、2004年に貴州工業大学と合併して、

現在の新しい貴州大学になった。貴州大学には、24の学院（学部）、101の専攻分野が設けられている。専任教員数は2632人、学生数7万余人、9つの校区を有する大規模な文理科総合大学である。

著しい経済成長を続ける中国では、その高度成長の背後で沿海地域と内陸地域との経済格差の拡大という大きな問題が生じている。貴州大学の所在地である中国貴州省は、中国の中で経済成長が立ち遅れ、極めて貧困な地域である。センターは、このような

地域特性のある貴州省の貴州大学経済学院と学術交流を進め、日中間の地域の経済問題のみならず、社会、教育等の諸問題等について、具体的に①共同研究の実施、②国際シンポジウムの開催、③研究成果の公表、④資料及び図書の交換、⑤研究者の交流等を通じて、日中間で共通の地域の問題を取り組んでいくこととしている。

### ●国土交通省受託事業決まる

センターは、平成17年11月18付で国土交通省中部地方整備局東海幹線道路調査事務所長と「三遠南信地域連携施策検討業務」の受託契約を行った。この業務は、三遠南信地域、とりわけ中山間地域の自立と発展のために地域の多様な人々との連携調査活動を通じて、地域資源、特に人の社会資本の点検を行うとともに道路網を活用した新たな地域の価値を創造するための施策の検討を目的としている。具体的には、愛知県東栄町古戸地区、静岡県浜松市熊地区（旧天竜市）、長野県下條村小松原地区の三地域の方々のご協力を得て、「地区の世帯ごとの意向調査」、「地区集会での地区力点検・聞き取り調査」、「地区の人からの口述調査」を実施する。分析、結果公開にあたっては、センターで開発に取り組んでいる電子地理情報システム(GIS)を活用する予定。

### ●豊橋技科大との連携融合事業が文科省に採択される

豊橋技術科学大学が平成18年度から5カ年にわたる私立大学と国立大学との連携融合事業として申請していた「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン——私立大学（文系）と国立大学（技術系）との連携を軸として——」が、このほど文部科学省により採択された。

この事業は、三遠南信地域を対象に技科大と本学が連携し、地域の自治体等の協力の下に、持続可能な地域づくり戦略プランの策定手法と人材育成・意識啓発アクションプログラムの開発を行い、県境を跨ぐ地域の地域づくりに貢献するとともに、産官学民の協働で取り組む地域づくりモデルとして全国に発信することを目的としたものである。平成18年度は運営費として、およそ3千万円が交付される予定である。

技科大では地域協働まちづくりリサーチセンターが中心となり、未来環境エコデザインリサーチセンターの協力を得、三遠南信地域連携センターと連携しながら、地域の公共的団体等の協力の下にすすめられる。

この事業のキックオフ宣言を兼ねてのシンポジウムが、3月28日に今後この連携融合事業のプラットホームとなる三河コンヴェンションアカデミーで開催される。両大学の西永学長・武田学長、穂積新城市長も出席いただき、事業の取り組み概要が紹介されることになっている。

### ●ESRI 社のGIS 教育支援プログラムに採択される

センターは、ESRI ジャパン社がすすめている大学・高等教育機関向けの「GIS 教育支援プログラム 2005」に採択された。

本プログラムは、大学をはじめとする高等教育機関に対して研究の幅を広げてもらうことを目的に、採用された機関に対してESRI 社の主要な GIS 製品セットを無償提供するというもので、センターは、「GIS 教育と GIS を活用した住民参加型地域づくりシステムの構築とその実践」というテーマのもと 2006年4月1日～2008年3月31日の2年間にわたり利用することになった。今後、本プログラムを活用して GIS データベース事業と連動する形で WebGIS のシステム構築などを行っていく。

## 活動記録 (2005.10 ~ 2006.1)

月	日	活動	備考	開催場所
10 月	1 日 (土)	「とよがわ流域大学」(愛知県・愛知大学連携事業) 開校式及び第1回講座 テーマ:「これまでの地域政策・地域計画と豊川流域圏」	講師=黍嶋久好 (本センター上席研究員)	豊橋校舎6号館 611教室 受講者45名
	1日(土)付	三遠南信地域連携センター「センターニュース(創刊号)」を刊行		
	6 日 (木)	韓国政府主催「第2回韓国地域革新会議・博覧会」 センター長が日本の地域政策に関する招待講演	参加者=センター長	韓国テグ EXCO
	7 日 (金)	学術的共同研究事業第2回研究会 16:40 ~ 18:40 演題:「本物」及び「理想」の世界のデザインにあたっての充足諸条件への一考察	報告者=高須健至 (愛知大学経済学部教授)	研究館 第4ミーティングルーム
	8 日 (土)	「とよがわ流域大学」第2回講座 テーマ:「とよがわ流域圏づくりの基本視点」	講師=藤田佳久 (愛知大学文学部教授) 講師=宮沢哲男 (愛知大学経済学部教授)	豊橋校舎6号館 611教室 受講者38名
	15 日 (土)	「とよがわ流域大学」第3回講座 テーマ:「流域一体化とネットワーク経済」	講師=浅澤博幸 (豊橋技術科学大学助教授)	豊橋校舎6号館 611教室 受講者39名
	17 日 (月)	運営委員会 (05-11)		センター事務室
	20 日 (木)	「三遠南信地域中学生の社会力・職業意識の形成に関する研究会」	参加者=岩崎、武田、櫻村、黍嶋、平川、曉	センター事務室
	22 日 (土)	「とよがわ流域大学」第4回講座 テーマ:「地域通貨と流域一体化」	講師=岩崎正弥 (愛知大学経済学部助教授)	豊橋校舎6号館 611教室 受講者33名
	29 日 (土)	「とよがわ流域大学」第5回講座 フィールドワーク①「地域通貨と流域一体化」	講師=岩崎正弥 (愛知大学経済学部助教授)	蒲郡市・藤枝市 受講者30名
11 月	31 日 (月)	運営委員会 (05-12)		センター事務室
	31 日 (月)	東三河地域産官連携フォーラム 2005 「産業連携による地域づくり GISシステムの開発」について報告説明	参加者=黍嶋(報告)、平川、曉敏	サイエンスコア
	3 日 (木)	壳木村新米まつり・秋色感謝祭 センター長が壳木産の新米を使ったお結びコンテスト審査委員を務め、特別賞を贈呈 地域づくりサポーター(学生)も参加し、アンケート調査、ジャンボ五平餅作り	参加者=センター長、黍嶋、平川、曉敏、 サポーター	うるぎふるさと館 うるぎ温泉「ごまだりの湯」
	4 日(金)~ 7 日(月)	「2005一村一品国際セミナー in 西安」 村山富市元首相と平松守彦元大分県知事が率いる日本代表団に参加し、「2005 一村一品国際セミナー in 西安」国際シンポジウムに出席	参加者=センター長、蒋湧、曉敏	中国陝西省西安市
	4 日 (金)	三遠南信サミット 2005 in 遠州に参加 テーマ「三遠南信・新たな時代の開拓へ~夢街道いよいよ実現へ~」 愛知大学三遠南信地域連携センターの取り組みについて発表	参加者=学長、岸本、黍嶋(発表)、平川	グランドホテル浜松
	7 日 (月)	学術的共同研究事業「豊川上流域現地視察」	参加者=岩崎、市野、黍嶋、平川	田峯地区、三都橋、田口鉄道駅舎等
	8 日 (火)	内閣府都市再生本部主催「大学と地域が連携したまちづくりワークショップ イン 豊橋」 センター長が愛知大学三遠南信地域連携センターの取り組みについて発表	参加者=学長、センター長、黍嶋、平川 山本研究支援課長、黒川、他大学関係者	豊橋技術科学大学
	10 日 (木)	豊橋市制100周年記念、中核市サミット 2005 in 豊橋 中核市の37市長が参加するサミット(眞の地方分権社会の実現に向けて)	参加者=黍嶋、曉敏	ホテル日航豊橋
	12 日 (土)	「とよがわ流域大学」第6回講座 テーマ:「豊川流域圏の民俗・文化」	講師=印南敏秀 (愛知大学経済学部教授) 講師=有園正一郎 (愛知大学文学部教授)	6号館 611教室
	15 日 (月)	第1回地域交流連携連絡会(国土交通省中部地方整備局主催) 三遠南信地域連携センター平成17年度事業取り組みについて報告	参加者=センター長(報告)、黍嶋	ホテルアソシア名古屋
12 月	17 日 (木)	運営委員会 (05-13)		センター事務室
	19 日 (土)	とよがわ流域大学第7回講座 テーマ:「広域的観光資源の発掘」	講師=戸田敏行(社)東三河地域研究センター常務理事) 照井易子(社)三遠南信アミ副理事長)	6号館 611教室
	26 日 (土)	とよがわ流域大学第8回講座 フィールドワーク②・「広域観光」	講師:照井易子(社)三遠南信アミ副理事長)	新城市
	3 日 (土)	とよがわ流域大学第9回講座 テーマ:「豊川流域圏一体化に向けた取り組み①—民間の視点から—」	講師:寺本和子(豊橋創造大学短期大学部教授) 原田敏之(社)徳の国森づくりの会事務局長)	6号館 611教室
	5 日 (月)	運営委員会 (05-14)		センター事務室
	10 日 (土)	とよがわ流域大学第10回講座 テーマ:「豊川流域圏一体化に向けた取り組み②—行政の視点から—」	講師:丹羽宏明(愛知県企画振興部地域振興課課長補佐) 穂積亮次(愛知県新城市長)	6号館 611教室
	10 日(土)~ 11 日(日)	「一村一品セミナー in 西安」の事後交流会及び情報資料収集	センター長、曉敏	大分県大分市
1 月	19 日 (月)	運営委員会 (05-15)		センター事務室
	27 日 (火)	壳木村新米まつり反省会	岩崎、黍嶋、平川、サポーター	壳木村役場
	12 日 (木)	GISデータベース事業第2回研究会 ○「大学でのGIS教育」 ○「オープンソース技術によるWeb GISのあり方」	(講師) 齋藤兼次氏(玉野総合コンサルタント地理情報部/ 本学院大学院地理情報システム(GIS)論研究担当) 林 浩司氏(玉野総合コンサルタント総合技術部 IT プロジェクト室)	研究館第1、2会議室
	14 日 (土)	運営委員会 (05-16)		センター事務室
	14 日 (土)	第2回センター会議開催		研究館第1、2会議室
	26 日 (木)	運営委員会 (05-17)		センター事務室

## 地域づくりリソースセンター活動状況 (2005.10 ~ 2006.1)

### ■長野県壳木村 (ふるさと館及びこまどりの湯)

- ★ 11月3日(木)
  - 壳木村新米まつり・秋色感謝祭<参加者=センター長、委員会、平川、暁、地域づくりリソースセンター(7名)>
  - センター長が壳木産の新米を使ったお結びコンテスト審査委員を務め、特別賞を贈呈。地域づくりリソースセンター(学生)も参加し、アンケート調査、ジャンボ五平餅作りを行う。

### ■研究館第1、2会議室

- ★ 12月22日(木)
  - 学内勉強会<参加者=岩崎、委員会、平川、暁、地域づくりリソースセンター(18名)>
  - 講師:日本システム開発研究所 諸橋和行氏
  - テーマ:地区力点検の手法について

### ■壳木村役場

- ★ 12月27日(火)
  - 壳木村新米まつり反省会<参加者=岩崎、委員会、平川、暁、地域づくりリソースセンター(8名)>

### ■静岡県天竜市熊(くんま)地区

- ★ 1月15日(日)
  - 国土交通省受託事業、現地調査<参加者=委員会、暁、地域づくりリソースセンター(5名)>
- ★ 1月25日(水)
  - 国土交通省受託事業、現地調査<参加者=委員会、平川、暁、地域づくりリソースセンター(1名)>
- ★ 1月30日(月)
  - 国土交通省受託事業、現地調査<参加者=委員会、平川、地域づくりリソースセンター(4名)>

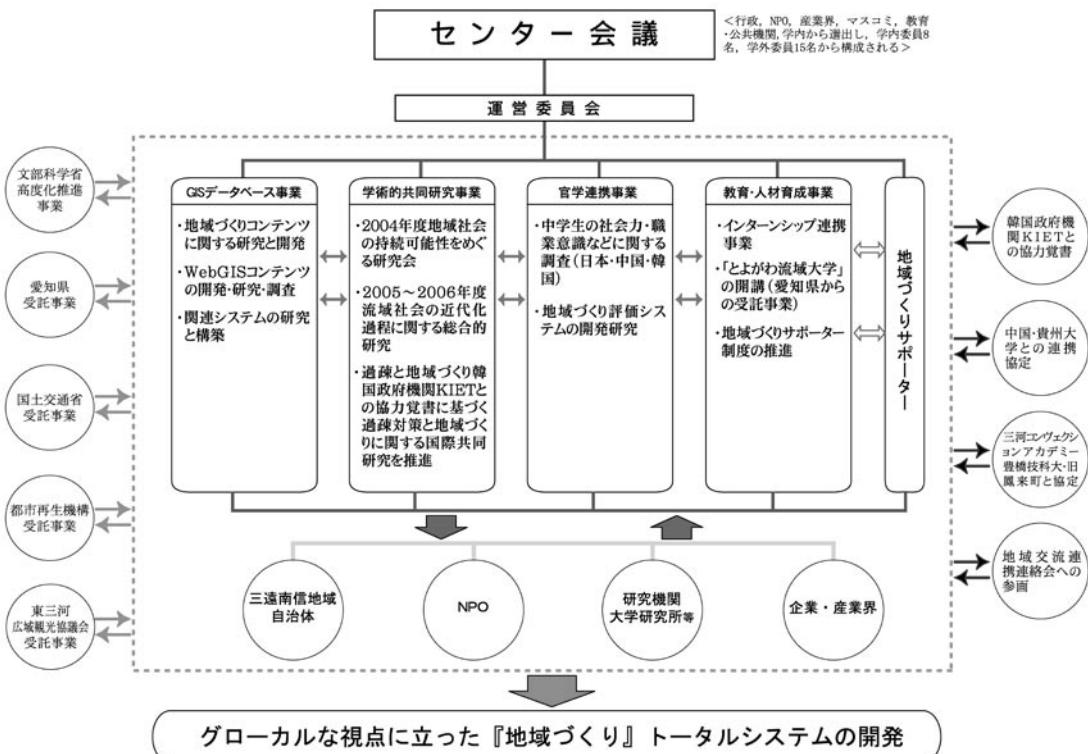
### ■長野県下條村小松原地区

- ★ 1月23日(日)
  - 国土交通省受託事業、現地調査<参加者=委員会、暁、地域づくりリソースセンター(2名)>

### ■愛知県東栄町古戸地区

- ★ 1月24日(火)
  - 国土交通省受託事業、現地調査<参加者=委員会、平川、暁、地域づくりリソースセンター(1名)>

## 三遠南信地域連携センターの概要



### =編集後記=

今年の冬は暖冬との気象予測でした。寒がりにとっては過ごしやすい冬になると喜んでいたのも束の間、記録的な大雪と雪害がニュースになっています。地域によっては高齢者が雪かきする様子が伝えられ、過疎化の深刻さ、地元産業への今後の影響など考えさせられる光景が連日報道されています。一方、雪を利用した産業が800年継承されている地域があります。岐阜県の飛騨では、和紙をつくる工程で原料の「こうぞ」を雪の上で漂白する昔ながらの手法は「こうぞの雪ざらし」と呼ばれ飛騨特有の冬の風物詩となっています。作業は3月まで続き、製品は白く丈夫な和紙として近年需要が高まっています。厳しい自然環境と長年共生してきた暮らしの知恵を学びたいと思うこの頃です。

### 編集・発行

愛知大学 三遠南信地域連携センター運営委員会

〒441-8522 愛知県豊橋市町畠町1-1

Tel : (0532) 47-4157 Fax : (0532) 47-4576

URL : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/sen-center/>

Email : [sen-center@ml.aichi-u.ac.jp](mailto:sen-center@ml.aichi-u.ac.jp)